

2018年12月

## 農業を用いた三方向（人口、教育、産業）からの地域活性化の一考察

経営学部 経営学科 新井ゼミ  
B5R11063 小宮山俊太

### 【卒業論文概要】

なぜ現代の日本では人口が首都圏に集中し、地方の衰退が年々進んでいるのだろうか。日本の地方衰退が始まったのは昭和35年からと総務省の調べでは出ていた。日本では、現在も刻々と地方の過疎化が進行している。総務省の平成29年度の調べによると、全国1,719ある市町村のうち、過疎地域とされている地域は47.5%の817のとされている。このような現象が起こる原因は、少子高齢化になどの自然増減によるところもあるが、平成20年ごろからは社会増減による要因が上回っていきいている。地方では働き口が、都心に比べると少ないので、働き世代の人たちが進学や就職の時期を機会に地元を離れることが、地方衰退の大部分を占めているのではないかといえる。

本稿の目的は、このような日本の現状のなかでこれらの問題の改善策として、農業を用いた地方活性の可能性を考え、茅ヶ崎市を一つの例にし、三方向（人口、教育、産業）からの活性化を図るために、茅ヶ崎市の過去に例がない方法を用いた政策での解決策を明らかにすることにある。

また、茅ヶ崎市における課題を子ども教育・出会いの場・今後の人口減少・後継者不足の改善・道の駅の宣伝・高齢者の労働口のこれら6点に絞り、農業をそれぞれに掛け合わせていくことで、個の解決策ではなく、それぞれに関係した解決策が生まれるのではないかと仮説を立てた。そのうえで、人口面においては、地方の人口減少の解決の糸口を探すべく婚活に焦点をあてて考察をし、教育面では数多くある教育分野から食農教育の分野に焦点を当てて検証および考察をした。産業面からは外国に輸出するための手段など茅ヶ崎外へのアウトプットを中心として物事の本質や状態などを明らかにするよう検証し、改善策を提示した。

婚活イベントや茅ヶ崎ブランドの野菜を海外に輸出を行うにも、今の茅ヶ崎市には資金が足りていない。そのためにも「道の駅」をはじめ、茅ヶ崎市全体のPRすることにより、資金調達と日本国内において茅ヶ崎市の認知度をこれまで以上に得ていくことが必要になる。そのことが、茅ヶ崎市の経済面においての基盤をさらに強化し、活性化することになる。そのため筆者は、本稿において様々な世代の人々が触れ合い学ぶことが必要と捉え、その課題を解決すべく、その施策として人口減少に歯止めを掛けるための婚活、食と経済を学ぶ行事、国内だけでなく海外への露出などを提示した。